

つながり つづくよ 人の輪 地域の和



地域個性を活用
「クリエイティブ」を街の再生キーワードの一つに
チャンブルー文化を活かすのね。

四十カ国以上の人々が暮らす沖縄市は、多種多様な文化が融合し、独自の文化をはぐくみながら発展してきましたが、それを支えてきた中心市街地では数十年前から空き店舗が目立つようになり、同市ではさまざまな対策を展開してきました。しかし、かつての賑わいを取り戻すまでには至らず、空き店舗対策は大きな課題でした。その解決に向けて、「多くの文化が交差し、感性をはぐくむ街」という地域の魅力を活かした取り組みが、「アートエリアプロジェクト・沖縄」

た家主の平良みどりさん。「この街に、アートによる国際交流の拠点、コザだから実現できる芸術創造の街「アートエリア」を築きたい」と、秋友さんは目を輝かせます。

経済効果に期待
ビジネスへ発展するアートエリアの形成へ
アートとビジネスのかけ橋的な役割だね。

同事業は、アーティストの創作活動が自身の生活の糧に結びつくための販路開拓も視野に入れ、本土研修や海外イベントへも参加し、ノウハウの蓄積を図っています。また、ウェブでアーティスト情報を定期発信。「知らない分野の人たちに興味を持ってもらえ、出会いにつながる」と語るの中心市街



沖縄市一番街でアトリエを構える石垣克子さん

沖縄市

国際色豊かな街の感性を活かす。地域の活性化にもつながるアートエリアづくりが進行しています。

クリエイターズビレッジ事業として平成二十一年にスタート。芸術やファッション、デザイン、音楽などの創作拠点として空き店舗を活用し、街の再生を図ることを目的としています。同事業は以前からアート作品の発表の場などを



事業を力強く推進するオフィス プラットの皆さんと普久原さん(後列右端)

連携の始まり
行政からの情報提供が、活動の幅を広げていった
アートによる国際交流をめぐって!



事業構想を熱く語るオフィスプラット代表・秋友かんなさん

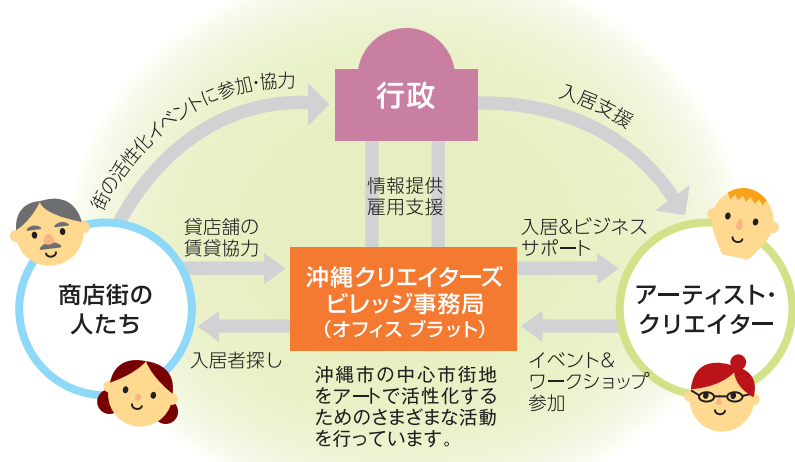


沖縄市の雇用促進・企業誘致推進課の普久原朝章さん

にいていねいな活動を心がける一方で、行政も情報交換を図りながらその想いに応えます。「店舗の整備費用を一部補助。地域活性化や産業育成を刺激する、多くの創作者を誘致したい」と、同市の雇用促進・

企業誘致推進課の普久原朝章さん。観光や雇用へも発展する「アートエリアづくり」へ向けて、同事業に携わる皆の気持ちは一つになって進みます。

沖縄クリエイターズビレッジ



沖縄クリエイターズビレッジの活動拠点「カラースハウス」



編集後記

モノレール牧志駅前にオープンした新しい街、「さいおんスクエア」に行ってきました。公民館のプラネタリウムは最新式で、星空が降ってくるような不思議な感覚を味わえ、久茂地公民館時代の昔ながらの雰囲気とはまた違った良さがあります。図書館などもあり、今後注目の街です。(kai)

慰霊の日には広報課のカメラマンとして、平和祈念公園に行ってきました。炎天下の中、県内外から約5000人の方が参列しました。追悼式の中で、中学生の平和の詩朗読があり、それを聞いて涙しているお年寄りの姿を見て、戦争は二度としてはいけないと改めて感じました。今月の広報誌の、県の動き1で追悼式について取り上げていますので、是非ご覧ください。(tama)

平成23年8月1日発行 第35巻8号通巻431号
沖縄県広報誌 **美ら島沖縄**
企画・編集・発行 沖縄県知事公室広報課
〒900-8570 那覇市泉崎1-2-2 TEL.098-866-2020

アンケート
「美ら島沖縄」の感想をお聞かせください。
▶パソコンはこちら [美ら島沖縄](#) 検索
▶携帯電話は、右のQRコードから



を皮切りに、沖縄市「クリエイター支援事業」、そして、沖縄県「文化産業振興地域形成モデル事業」などの公募事業を活用して、スタッフの雇用を図り、空き店舗の調査からアーティストの入居までを支援する「創作拠点の整備」や「地域交流」、「商品開発」などを行っています。拠点整備では、今年度、空き店舗を再利用して十店舗のシャッターを上げる予定。「アーティストが街に集まってくると、子どもたちの感性も自然と豊かになる」と語るの、店舗を快く貸し出してくれ



同事業へ期待を寄せる、家主の平良みどりさん

